

2023（令和5）年度 上野高等学校（全日制）学校マネジメントシート

1 目指す姿

| | | |
|------------|---------------|--|
| (1) 目指す学校像 | | <ul style="list-style-type: none"> 1 生徒が学びがいを実感する学校 2 保護者・地域が頼りがいを実感する学校 3 教職員が働きがいを実感する学校 |
| (2) | 育みたい 児童生徒像 | <ul style="list-style-type: none"> 1 挨拶や気づきを大切にし、命を大切にする生徒 2 規範意識を高く持ち、自律した行動ができる生徒 3 他者と協力する力（協創力）や、自ら将来を切り拓く力等を身につけながら、さまざまな課題の解決に向けて自ら考え行動し、挑戦し続ける生徒 |
| | ありたい 教職員像 | <ul style="list-style-type: none"> 1 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 2 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員 |

2 現状認識

| | | | |
|-----------------------------|---|--|--|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒：学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立 ○保護者：国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活 ○卒業生・地域住民：地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績 ○大学：学力と意欲の高い生徒の育成 | |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | 連携する相手からの要望・期待 | | 連携する相手への要望・期待 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○PTA：進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供 ○地域住民：情報発信と地域貢献 ○小中学校：地域の子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流 ○地域の関係機関：地域人材の輩出 | | <ul style="list-style-type: none"> ○PTA：教育活動・教育環境充実のための理解・協力 ○地域住民：教育活動への理解・協力 ○小中学校：指導上必要な情報提供等 ○地域の関係機関：キャリア教育充実のための協働態勢 |
| (3) 前年度の学校関係者評価等 | | <ul style="list-style-type: none"> ○大学進学を目指す生徒にとって、伊賀地域の拠点校として、魅力ある学校づくりに継続して努めてほしい。 ○SSHの取組を中心とした探究学習に対して、生徒の満足度が高く、取組の充実度が伺える。高校卒業後の進路選択と結びつく取組となるよう学校の魅力向上を図ってほしい。 ○探究的な学びや教科横断的な学習が、学力の向上と進路実現にどのような成果をもたらすかを明らかにして一層活性化を図ってほしい。 ○文武両道を引継ぎ、コロナ後は伝統ある行事を復活・充実させることにより、卒業してからも誇れる学校にしてほしい。 ○引き続き、生徒が個々に抱える悩みや不安を相談できる学校づくりに努めてほしい。 | |
| (4) 現状と課題 | 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ○文武両道の伝統があり、生徒の多くが勉強と部活動の両立を図りながら、一丸となって学校行事に取り組むなど充実した学校生活を送っている。熱心できめ細やかな学習指導と進路指導の結果、難関国公立大学をはじめ、生徒・保護者の高い国公立志望に応えている。また、社会や地域の課題を発見・解決する「みらい探究」は、生徒の満足度も高く、充実した取組となっている。 ○人権尊重の態度を身に付けた心豊かな人間形成をめざし、気づきつながらあう活動は評価されており、今後も、いじめや差別を見抜き解決に向けて行動できる力の育成を図るとともに、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）等の取組により、想像力・協調性や、新たな課題の解決に積極的に取り組む生徒を育成する。 | |

| | |
|-------|---|
| 学校運営等 | <p>○これからの時代に対応した学習に取り組めるよう、学際的な学びや地域に関する学びに重点的に取り組む探究活動の在り方を検討し、生徒がイキイキと学校生活を送る姿が、中学生や地域に広く伝わるように「開かれた学校づくり」を推進する。</p> <p>○時間外労働時間の削減は前進したものの、「三重県立学校における教育職員の在校時間の上限等に関する規則」に則り、時間外労働が1カ月45時間以内、1年360時間以内を遵守できるよう、組織な運営で業務時間を削減する。</p> |
|-------|---|

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|--|
| 教育活動 | <p>1 「生徒が学びがいを実感する学校」の実現に向けて</p> <p>生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現し、さまざまな教育活動に主体的・協働的な態度で取り組み、他者と共生する力を身に付けるよう、全教職員による共通理解のもと、生徒の『自己指導能力』（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる教育活動を推進</p> |
| 学校運営等 | <p>2 「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」の実現に向けて</p> <p>保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保し、本校の入学を希望する中学生・保護者が増加するよう、探究に力を入れた教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、いじめを許さない迅速な対応等の取組を推進</p> <p>3 「教職員が働きがいを実感する学校」の実現に向けて</p> <p>本校の教職員が生徒の成長を実感し、イキイキと勤務できるよう、活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みの構築や、過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組等を推進</p> |

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------------------|---|--|----|
| 1 生徒が学びがいを実感する学校 | <p>○全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間による研究授業・授業評価の実施 ・より深い学びを主体的に行えるように、すべての授業でICTの活用を進める。 ・生徒による授業評価年2回実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ）90%以上 ・協働学習や個別学習でICTを活用した教員割合 80% <p>○生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSHの事業である「上高みらい探究プログラム」と連携し、「進学型キャリア教育」や「進学型インターンシップ」をICTも活用し系統的に実施する | <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間による研究授業・授業評価を年2回実施 ・教科ごとにICT活用をテーマに計画書を作成するとともに、事例報告を共有 <p>・7月と12月の2回実施</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年 91.5%、2学年 88.4%、3学年 89.9% ・70% <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みらい探究」で積極的にICTを活用し、みらい探究発表会においてもポスターセッションを手書きから、パワーポイントを用いたカラーにしたことで高評価を得た。 <p><進学型インターンシップ></p> | |

【成果指標】

・「総合的な探究の時間」の授業満足度 80%以上

・国公立大学合格者数、各クラス10人程度
・週末の学習支援の実施。3年土曜講座7回、土曜自習室22回

○スーパーサイエンスハイスクール (SSH) の取組を推進する。

【活動指標】

・探究的な内容を含んだ授業を各科目の 90%以上で実施
・高大連携先の開拓と地元企業、卒業生、他校 SSH との協力体制の推進
・「みらい探究 R」の授業運営方法の確立と全教員での指導体制の構築

【成果指標】

・生徒の各活動満足度各学年 90%以上

- ① 地域医療オンラインセミナー(県教委主催)2年生 16名参加、
- ② 岡波総合病院主催の看護体験に1年生2名・2年生6名・3年生2名参加、
- ③ 「高校生のための看護職キャリアデザイン講座」(三重県立看護大学主催)に3年生2名参加
- ④ 作業療法体験・見学会(県作業療法士会主催)に1年生2名、2年生5名参加
- ⑤ 伊賀市 IGABITO 育成事業5期目指定。SSH 事業と合わせて2月7日にみらいプロジェクト発表会実施

【成果】

・生徒満足度 12 月アンケート

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|-----|-----|-----|-----|
| 理数科 | 98% | 87% | 86% |
| 普通科 | 86% | 67% | 76% |

・3年土曜講座7回、土曜自習室 22 回実施

【活動】

・探究的な授業の実施科目割合 100%
・理数科合宿や課題研究成果報告会などの発表会を通して本校理数科卒業生との交流会実施
・東京キャリアアップツアー実施
・つくばサイエンスツアーや量子科学研究所、京都大学エネルギー理工学研究所での最先端の科学技術を見学
・課題研究における大学との連携数の増加
・他校 SSH と合同臨海実習参加、各種発表会への参加者数増加
・課題研究の担当教員数増加

【成果】

・前項目と共通

改善課題

・教員の一人1台パソコンの更新が年度途中にあり、多少混乱することもあった。飛躍的に整っていく ICT 教育の環境についていくのが大変である。授業で ICT を活用している教員の割合は 70%と前年度と比較して増加しているが、非常勤講師の先生方の活用について検討していく必要がある。

・1人1台端末の活用により、1年生みらい探究Fのポスターの質の向上が見られ、ポスターセッションの質の向上が図られた。各学年で探究活動の内容の質の向上も図られたが、今後はさらにデータの活用等、エビデンスに基づいた探究活動の展開が期待される。2年生みらい探究Fは満足度が低いことから内容の改善を図る必要がある。

・共通テストへの対応が一段落し、第一志望への合格力を高める指導を一層拡充する。進学型インターンシップへの参加者が増え、生徒が様々な刺激を受ける機会が増えてきた。理数科では東京キャリアアップツアー等の取組を継続し、刺激から学問への好奇心を育む取組を増やしていきたい。

(2) 学校運営等

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|----------------------------|---|--|----|
| <p>2 保護者地域が頼りがいを実感する学校</p> | <p>○人権教育を積極的に推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習LHRを各学年年1回以上公開 ・教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施 ・新着任者および本校勤務2年目の教職員が年2回実施するフィールドワークに1回以上参加 ・全教職員が年1回以上人権に関わる研修や学習会に参加 ・生徒が主体的に取り組む小学6年生との人権交流会を年2校以上実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加 <p>○生徒理解を深め、生徒の自己指導能力を高める指導を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導強化月間を年3回設け、あいさつ・身だしなみ、時間厳守、規律・安全指導を実施する。 ・保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施 ・支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動による特別指導件数を一層減少 | <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年は11/8(水)、2学年は11/15(水)、3学年は6/28(水)に公開人権LHRを実施 ・全体研修は5/15(月)と10/26(木)に、小グループ研修は4～5月、2～3月に2回実施 ・フィールドワークは6/20(火)、6/22(木)に実施。昨年度に続き、転任・新任が参加 ・校内においても指導案検討会や人権研修会を実施(全教職員が参加) ・人権交流会を2校実施(上野西小学校10/6(金)、上野東小学校12/1(金)) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権サークルでは、3年生1名、2年生2名、1年生9名が、積極的に活動に取り組み、小学校との人権交流会では人権課題について自身の思いなどを発表した <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等、規制がほぼ解消され、通常通りの活動が可能となった。学校行事への保護者や地域の方の参加など、オープンな学校とし・今後検討していく課題ではある。 ・登下校指導をはじめ、職員全体ができる指導を継続的に我慢強くしていく必要がある。 ・1年では入学式後のオリエンテーションで重点強化し、各学期の学年集会でも学年主任が対応している。また、日常のSHRを含めた学習活動で担任・学年の先生中心に積極的に実施している。 ・1年6月/2年7月/3年6月に各学年実施。各学年、生徒が直面する悩みなどの解決や緩和に参考となったという意見が多かった(アンケート結果より)。 ・4月に保健部情報共有会、9月に教育相談事例検討会を実施した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ案件3件と例年並み、問題行動は昨年と比べて減少。ネットモラルや法律の理解など、多様な対応に対策が必要である。 | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | <p>○学校情報を積極的に提供・発信し、地域の発展に貢献する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・報道機関を通じて情報発信(更新履歴件数)年 100 件以上 ・生徒主体の学校説明会(体験授業を含む)年2回開催 ・小中校との連携、地域イベントへの協力 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年後期選抜普通科・理数科合計入学志願倍率 1.1 倍以上 | <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬休みまでのホームページの「上高ニュース」更新回数が約 50 回。また、公式インスタグラムも立ち上げ、これまで約 30 回の投稿を行った。 ・全体の学校説明会・体験授業を秋に午前・午後の 2 回構成で実施した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終倍率 0.99 倍 (前期理数科 3.7 倍) | |
|--|--|--|--|

| | | | |
|--------------------------|--|--|--|
| <p>3 教職員が働き甲斐を実感する学校</p> | <p>○過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日を月 1 日設定し、定時退校できた職員の割合 70%以上 ・放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合 90%以上 ・部活動休養日を週 1 日設定し活動した部活動の割合 100% <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月 45 時間を超える時間外労働の延べ人数 0 人 ・年 360 時間を超える時間外労働の人数 0 人 ・1人当たりの月平均時間外労働 25 時間以下 ・1人当たりの年休取得日数を昨年比 1.1 日増加(目標値 13.0 日) | <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校自体が難しい職場ではあるものの、意図的に声掛けをしながら推進している。 <p>51%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議については、極力60分以内に終わる努力をしている。 <p>71%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての部活動で設定している。 <p>100%</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・83 人 ・12 人 ・25.7 時間 ・13.6 日 | |
|--------------------------|--|--|--|

改善課題

・人権教育については、人権LHRやさまざまな機会をとおして「教師がみずから語り掛ける」ことに取り組んだ結果、生徒の重要度満足度アンケートの評価は高く、今後も、生徒と教師の関係を丁寧に紡ぐ言葉がけの意識化に取り組んでいきたい。

・学校情報の発信については、本年度から公式インスタグラムを開設し、可能な限り最新の情報を発信するよう取り組んだ。しかし、閲覧してもらうためには、公式インスタを知ってもらう必要があり、フォロワー数の拡大については、引き続きさまざまな機会をとおして周知していきたい。

・過重労働緩和・総勤務時間縮減については、1人当たりの月平均時間外労働と1人当たりの年休取得日数の改善を図ることができたが、まだまだ課題は多い。次年度に向けて、改めて管理職から周知するとともに、会議や委員会の見直しを図っていきたい。

5 学校関係者評価

| | |
|------------------------|---|
| <p>明らかになった改善課題と次への</p> | <p>○1人1台端末が導入され、ICTの活用が進められており非常に良いことだが、重要なのは授業力であり、ICTはあくまで分かりやすい授業づくりのためのツールとして効果的に活用してほしい。</p> |
|------------------------|---|

| | |
|------|---|
| 取組方向 | <p>い。</p> <p>○生徒の授業満足度が目標に達していない学年があるので、なぜ満足度が前年と比べて下がっているのかなどを分析し、改善に努めてほしい。</p> <p>○進学型キャリア教育を進め、生徒がさまざまな体験や経験をとおして刺激を得られているのは良い。キャリアビジョンをどのように持たせられるかが、学習意欲の向上にもつながると思うので、継続して取り組んでほしい。</p> <p>○あいさつや身だしなみ等については、社会に出ると非常に大切であることから、しっかりとした指導を継続してほしい。</p> |
|------|---|

6 次年度に向けた改善策

| | |
|--------------|---|
| 教育活動についての改善策 | <p>○BYOD 方式の学習端末活用が進み、高い活用率を実現している。今後は、より分かりやすい授業づくりに向けて、生徒が効果的に ICT を活用する授業について、一層の研究を進める。</p> <p>○生徒の授業満足度を高めるため、インプット重視の授業から、生徒が主体的に考えたり、まとめたり、発表したりするなど、アウトプット重視の授業に転換する。</p> <p>○生徒の自己効力感を高めながら、教科横断的な探究活動の成果を一層発展させ課題解決能力の向上を図るためのカリキュラム開発を行う。</p> <p>○理数科・普通科ともに社会人として「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報を取捨選択・活用しながら主体的に判断できるキャリアプランニング能力を育成する。</p> |
| 学校運営についての改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・SSH 事業第 1 期では課題研究と地域探究型の相乗効果による取組が評価されたが、第 2 期では「国際舞台で活躍する科学技術人材の創出」に向けて、より高度な研究と国際交流を展開する。 ・普通科の魅力化・特色化に向けて、探究活動を深める学校設定科目の内容を研究する。 |